大分県立埋蔵文化財センター調査報告書　第 14 集

府内城・城下町31次

－公用車等駐車場再配置事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２０２０

大分県立埋蔵文化財センター

府内城・城下町31次　公用車等駐車場再配置事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２０　大分県立埋蔵文化財センター

府内城・城下町31次

－公用車等駐車場再配置事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２０２０

大分県立埋蔵文化財センター

府内城・城下町 31 次

－公用車等駐車場再配置事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

序　文

本書は、大分県教育委員会が大分県総務部県有財産経営室の依頼を受けて実施した公用車等駐車場再配置事業に伴う府内城・城下町の発掘調査報告書です。

府内城は慶長２年（1597）に福原直高によって築城が始められ、その後、竹中重利が慶長６年（1601）に入封し、城郭の主要施設と城下町の建設を着手しました。翌年には三ノ丸に入る東西南北の入口などが完成しています。今回、府内城・城下町の東側の中堀周辺の調査を行い、中堀の位置に関して新たな知見を得る成果を挙げることができました。

本書が埋蔵文化財に対する今後の保護・啓発の一助として活用されれば幸いです。

最後に、今回の調査に対し多大な御支援と御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和２年３月 31 日

大分県立埋蔵文化財センター

所　長　江　田　　豊

例　　言

1．本書は平成30年度に実施した、大分県大分市大手町に所在する府内城・城下町の発掘調査報告書である。

2．調査は公用車等駐車場再配置事業の実施に伴い、大分県総務部県有財産経営室の依頼を受けて大分県立埋蔵文化財センターが実施した。

3．本調査は平成30年10月29日～11月20日にかけて実施したもので、府内城・城下町の第31次調査となる。

4．発掘調査の実施に際し調査の支援業務委託を導入した。現地での写真撮影や遺構実測等の記録作成作業は県調査員の指揮監督の下、業務受託者である株式会社九州文化財総合研究所が行った。

5．出土品の遺物洗浄、注記、接合、実測、遺物写真撮影、トレース等の整理作業は令和元年度に株式会社九州文化財総合研究所に委託した。報告書作成業務は令和元年度に実施した。上記委託業務以外の遺構・遺物図版の作成は土谷が行った。

6．出土遺物及び写真・実測図等の調査記録は大分県立埋蔵文化財センター（大分市牧緑町1番61号）で保管している。

7．図中で示した方位は座標北で、座標値は世界測地系の数値である。

8．本書の執筆・編集は土谷が行った。

9．「府内城・城下町」の発掘調査については、大分市教育委員会が次数整理を行っている。これに沿った場合、今回の調査は第31次に該当する。

目　次

序文
例言
第１章　調査の経過と概要 …… 1
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査の経過 …… 1
第３節　調査組織の構成 …… 2
第２章　遺跡の位置と環境 …… 3
第１節　地理的環境 …… 3
第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　発掘調査の成果 …… 6
第１節　遺跡の調査 …… 6
第２節　層序 …… 7
第３節　遺構 …… 7
第４節　トレンチ …… 7
第５節　遺物 …… 11
第４章　総括 …… 14
出土遺物観察表
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第１図　府内城・城下町位置図 …… 1
第２図　調査区位置図 …… 5
第３図　調査区配置図 …… 6
第４図　調査区平面図 …… 8
第５図　調査区土層断面図 …… 9
第６図　遺構図 …… 10
第７図　区域１出土遺物（１） …… 12
第８図　区域１出土遺物（２） …… 13
第９図　区域２出土遺物（１） …… 13
第10図　区域２出土遺物（２） …… 14
第11図　府内城絵図 …… 15

表目次

第１表　遺物観察表（土器・陶磁器・ガラス瓶）…… 16
第２表　遺物観察表（石製品）…… 16
第３表　遺物観察表（銭）…… 16
第４表　遺物観察表（瓦）…… 16
第５表　遺物観察表（土製品）…… 16

写真図版

写真図版１　調査区遠景（南東から）…… 19
区域１完掘（西から）
区域２完掘（西から）
調査区外トレンチ位置（南から）
ＳＸ９完掘（南から）
写真図版２　トレンチ５堀の東石垣（裏込め石）検出状況（北から）…… 20
トレンチ６堀の東石垣（裏込め石）検出状況（北から）
写真図版３　出土遺物（第７図１～第７図７）…… 21
写真図版４　出土遺物（第７図８～第８図12）…… 22
写真図版５　出土遺物（第８図13～第10図19）…… 23
写真図版６　出土遺物（第９図16）…… 24

第１章　調査の経過と概要

第１節　調査に至る経緯

公用車等駐車場（1715 ㎡）は、昭和 50 年代前半に建築された建物であり、かねてより老朽化及び耐震強度等の不足が懸念されていたことから建替の必要が生じていた。このため、大分県総務部県有財産経営室は、地震や津波等の浸水災害発生時の安全が確保され、災害時の初動対応に万全に期し、危機管理の確保が可能となる新たな公用車等駐車場を建設することとなった。

そこで、大分県総務部県有財産経営室から、平成 29 年７月３日付けで大分県教育委員会文化課宛て公用車等駐車場再配置事業に係る埋蔵文化財確認調査の依頼があり、埋蔵文化財センターは同年７月 28 日付けで実施計画書を提出した。対象地は県庁舎本館の東側にある公用車等駐車場（1715 ㎡）で府内城・城下町に位置する。同年７月 29 日に確認調査を行った。その結果、府内城の堀跡及び町屋に関する遺構が確認されたため、本調査が必要であると回答した。

第１図　府内城・城下町位置図

第２節　調査の経過

１　発掘調査の経過

公用車等駐車場再配置事業に伴う発掘調査は、平成 30 年９月５日付けで県有財産経営室から大分県教育委員会文化課長宛て埋蔵文化財発掘調査（本調査）依頼が提出され、同年９月 26 日付けで発掘調査の受諾と実施計

画書、所要経費見積書を提出した。10 月 20 日付けで大分県教育委員会へ文化財保護法 99 条第 1 項に基づく発掘調査の施行を通知した。

発掘調査の実施にあたり、発掘作業や記録図化作業、労務管理や現場管理等を支援業務として民間調査組織に委託した。調査区の設定や層序・遺構面の確認、遺構の認定、遺構埋土や調査区土層の分層等は埋蔵文化財センター職員が行い、遺構の性格や遺跡全体の関係を把握しながら、必要に応じて受託業者調査技師に作業の指示を与え、県職員が常駐して全体を監督しながら、調査精度を確保する体制をとった。

調査は工事が行われる 529 ㎡を対象とし、調査の関係上、2 区に分けて調査を行った。10 月 29・30 日に区域 1 の表土剥ぎを行い、10 月 31 日から人力による掘削を開始した。11 月 6 日に完掘後、全景写真撮影を行った。次に 11 月 7・8 日に区域 1 から区域 2 への調査地の切り返しを実施した。11 月 9 日に人力による掘削を開始し、11 月 15 日に完掘後空撮を行った。11 月 19・20 日に埋め戻しを実施し、終了した。

調査終了後、平成 30 年 11 月 20 日付で大分中央警察署長あて埋蔵文化財発見通知を提出するとともに、県教育委員会文化課及び県有財産経営室へ本調査の終了を通知した。以上をもって、本業務を完了した。

2　整理作業の経過

整理作業及び報告書作成作業を令和元年度に実施した。整理作業は基本作業と資料作成業務を一括して委託し、埋蔵文化財センター整理棟を作業場所として実施した。委託内容は出土遺物の水洗、出土地点の注記、遺物接合、遺物復元の前半工程と、遺物実測、遺物観察基礎データ作成、遺物実測図のトレース及び遺物区分けや収納等諸作業である。作業工程ごとに調査担当者が完了確認を行い、作業精度の確保に努めた。整理作業は箱数 5 箱を対象として、令和元年 5 月 21 日から令和元年 8 月 31 日まで、遺物洗浄から遺物実測図トレース・遺物写真撮影までの各作業を行った。

報告書作成に係る遺構、遺物等図版作成作業や原稿執筆、編集作業は調査担当者が整理作業と並行して行った。令和 2 年 1 月に原稿を入稿し 3 度の校正を経て本書を刊行した。

第 3 節　調査組織の構成

発掘調査時の組織は以下のとおりである。

（平成 30 年度発掘調査）

調査主体	大分県教育委員会		
調査総括	大分県立埋蔵文化財センター	所長	江田　豊
	同	参事兼調査第一課長	友岡信彦
調査事務	同	副所長兼総務課長	森次正浩
調査担当	同	調査第一課主事	土谷崇夫

（令和元年度整理作業）

調査主体	大分県教育委員会		
調査総括	大分県立埋蔵文化財センター	所長	江田　豊
	同	参事兼調査第一課長	友岡信彦
調査事務	同	副所長兼総務課長	松本昌浩
整理事務	同	調査第二課長	後藤晃一
報告書担当	同	調査第一課主任	土谷崇夫

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

大分市は大分県中央東部に位置する。北は別府湾に、東は豊後水道に面している。調査の対象となった地点は別府湾に面する大分平野に位置し、地質的には平野内部は新生代第三紀中新世から第四紀の地層である豊州累層群が広く分布している。平野中央部を大分川が流れており、源を由布岳に発し、阿蘇野川、芹川、賀来川、七瀬川と合流し、別府湾に注ぎ込んでいる。大分平野東部は、大分川河口部に形成された微高地と後背湿地、上野台地などの河岸段丘で構成されている。今回調査を実施した府内城・城下町は、大分川の左岸にあり、河川によって形成された微高地上に位置する。府内城の北側は、江戸時代は海に面しており、京治といわれる港湾施設が城下町の北西に存在していた。

第２節　歴史的環境

大分川下流左岸にある府内城・城下町周辺の沖積地及び上野台地においては、旧石器時代・縄文時代の良好な遺跡は今まで確認されていない。ただ府内城・城下町跡の整地層から二次的な移動で縄文時代後晩期の土器が出土することから、当該時期の遺跡が存在する可能性もある。

弥生時代・古墳時代になると多くの遺跡が良好な状態で確認されている。上野遺跡群では弥生時代中期の集落を区画するＶ字状の溝・住居跡・貯蔵穴・方形周溝墓などが見られる。特に方形周溝墓の溝から祭祀用の弥生土器が出土している。東大道遺跡Ｂ地区では弥生時代後期前半の土坑が検出され、後漢鏡が出土している。東田室遺跡では、弥生時代前期末と古墳時代前期の遺構が主に確認されており、集落を区画する古墳時代前期の溝も検出されている。竪穴住居跡からは、土師器壺の頸部から胴部にヘラ描きによる文様を描いた絵画土器も出土している。若宮八幡遺跡では、弥生時代・古墳時代の住居跡・溝などが確認されている。

奈良時代・平安時代は、役所関係の遺跡が多く確認されており、残りも良好である。上野丘陵上の羽室井戸遺跡・園遺跡・竜王畑遺跡では、９世紀代を中心とし、７世紀後半から 10 世紀前半に至るまでの掘立柱建物や築地塀などが多数検出されており、国司館等、豊後国衙関連の施設であると推定されている。また上野丘陵北側の微高地上に位置する大道遺跡群においては、多数の掘立柱建物群が検出され、奈良三彩や緑釉陶器、転用硯も出土していることから、豊後国衙と関連する官衙であると推定される。

鎌倉時代になると、13 世紀に、大友氏が関東から下向して豊後を支配する。大友氏の初期の守護所については、大分市顕徳町の大友氏館跡あるいは上野台地に位置する上原館跡が想定されるが、当該期の遺構は確認されていない。

室町時代では、大友氏館跡、中世大友府内町跡、旧万寿寺跡が継続して調査がされているが、戦国末の様子を描いた絵図「府内古図」に基づき現地比定した結果、中世府内町が南北 2.2 ㎞、東西 0.8 ㎞にわたって広がっていると推定され、２町四方の規模を有する大友氏の戦国期館跡や大規模な庭園遺構も確認されている。また大友氏館跡正面の大路沿いには町屋遺構が展開している。旧万寿寺跡では区画を示す溝や柱穴列などの遺構、大量の瓦、「万寿寺」「蒋山」などの刻書土器、「蒋山観音殿」の墨書土器がみられ、大規模な中世寺院が存在していたことが確認された。これらの遺跡から出土した遺物のうち 1269 点が令和元年７月に重要文化財に指定されている。

戦国末になると、慶長２年（1597）に福原直高によって府内城の築城が着手される。慶長４年（1599）には二ノ丸東三重櫓と三ノ丸家臣団屋敷が完成している。その後入封した竹中重利の時に、ほぼ城下町を含めた主要施設である天守閣・櫓・門・三ノ丸の中堀・山里丸および三ノ丸に入る東西の入口を完成させ、三ノ丸外側を囲む

形で町割りを敷き、町民を移住させている。慶長10年（1605）にはほぼ城下町及び外堀が完成し、慶長12年(1607)には城下への入口を3箇所設けている。翌年（1608）には城下の北西部に京治と命々された舟入を作り、城下町は一応の完成をみた。

今回の調査地付近における府内城・城下町の調査については、平成3年度の大分県庁舎新館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査で、「木村」の焼継文字が表された陶磁器が出土したことから、大給松平家家老木村家の屋敷地であったことが考古学的に証明された。寛保の大火（寛保3年：1743年）に比定される火災処理一括資料も出土している。平成4年度の宗門櫓前石垣の埋蔵文化財発掘調査では、宗門櫓北の石垣基底部を検出した。平成5年度の大分県庁舎新館前広場モニュメント建設に伴う埋蔵文化財発掘調査では、「□入孫九郎様」の焼継文字を有する陶磁器が出土し、家老木村孫九郎の屋敷跡であるがことが証明された。平成5年度の大分合同新聞社屋建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査では、17世紀初頭に遡る石組み倉状の遺構や17世紀後半ないし18世紀後半～19世紀初頭の長方形大形土坑が検出された。平成23年度に大分市立荷揚町小学校屋内運動場改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査では19世紀代の遺構から武家屋敷の居住者を示す「手嶋」「上原」の焼継文字がある磁器が出土している。平成29年度の大分県庁別館受変電棟増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査では、武家屋敷が検出され、屋敷を区画する溝が確認された。この調査では江戸初期から幕末までの継続的な遺物が出土した。

（参考文献）

大分県教育委員会 1989『下郡桑苗遺跡』

大分県教育委員会 1992『下郡桑苗遺跡Ⅱ』

大分県教育委員会 1993『府内城三ノ丸遺跡』

大分県教育委員会 1994『府内城三ノ丸遺跡Ⅱ』

大分県教育委員会 1996『府内城三ノ丸北口跡』

大分県教育委員会 2001『上野遺跡群大分上野丘高校地区』

大分県教育委員会 2002『東大道遺跡（B地区）』

大分県教育委員会 2006『上野町遺跡・顕徳寺遺跡』

大分県教育庁埋蔵文化財センター 2006『豊後府内3　中世大友府内町跡第7次・第16次調査区』

大分県教育庁埋蔵文化財センター 2005～2007『豊後府内』1～7

大分県教育庁埋蔵文化財センター 2008『東田室遺跡』

大分県教育庁埋蔵文化財センター 2016『府内城三ノ丸遺跡Ⅲ』

大分県立埋蔵文化財センター 2019『府内城三ノ丸遺跡Ⅳ』

大分県立埋蔵文化財センター 2019『蒋山万寿寺跡』

大分市教育委員会 1992『園遺跡－都市計画道路古国府木ノ上線改良工事に伴う発掘調査報告書－』

大分市教育委員会 1992「上野遺跡群」『大分市文化財年報3』

大分市教育委員会 2002～2006『大友府内』4～8

大分市教育委員会 2008『府内城・城下町跡5』

大分市教育委員会 1994「12府内城・城下町遺跡」『大分市埋蔵文化財調査年報5』

大分市教育委員会 2006『若宮八幡遺跡第1次調査』

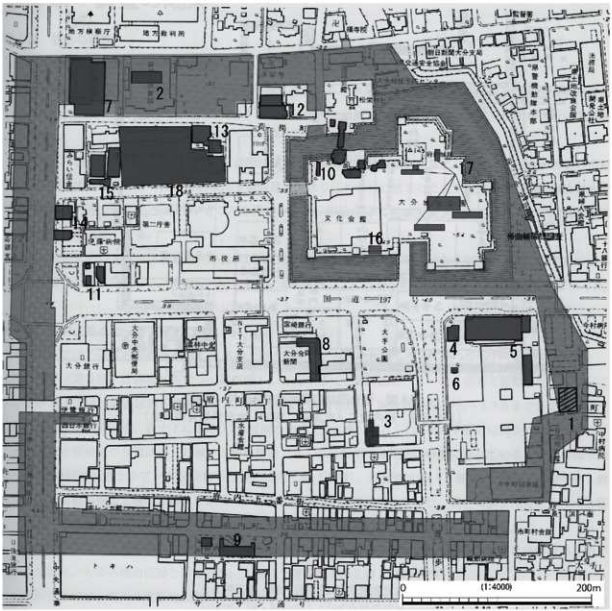
大分市史編さん委員会 1995『大分市史』上巻

大分市史編さん委員会 1987『大分市史』中巻

高橋信武 1999「上野遺跡群竜王畑遺跡の発掘調査－豊後国府関連遺跡の発見」『大分県地方史』173号

玉永光洋・坂本嘉弘 2009『大友宗麟の戦国都市　豊後府内』新泉社

坪根伸也他 1996「豊後国府推定地周辺の発掘調査Ⅱ－羽屋・井戸遺跡の調査から－」『大分県地方史』163号



番号	調査の内容	遺跡の概要	調査次数	調査主体者
1	公用車等駐車場西配置事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	中堀	31次	大分県教育委員会
2	知事公舎建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	中堀	30次	
3	大分県庁別館受変電棟増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査	三ノ丸武家屋敷	28次	
4	大分県庁新館受変電棟新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査	三ノ丸武家屋敷(木村家)	25次	
5	大分県庁舎新館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査	三ノ丸武家屋敷(木村家)	1次	
6	大分県庁舎新館前広場モニュメント建設に伴う埋蔵文化財発掘調査	三ノ丸武家屋敷(木戸家)	2次	
7	大分県中央警察署本部別館庁舎新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査	堀・石垣・櫓・三ノ丸北口	3次	
8	民間開発に伴う埋蔵文化財発掘調査	三ノ丸武家屋敷	4次	大分市教育委員会
9	公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査	中堀	5次	
10	公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査	西ノ丸・廊下橋、周辺建物	6次	
11	民間開発に伴う埋蔵文化財発掘調査	三ノ丸武家屋敷(森下家)・浄安寺	10次	
12	大分市保健所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査	北ノ丸・堀	16次	
13	市営荷揚町中央駐車場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査	三ノ丸武家屋敷	17次	
14	民間開発に伴う埋蔵文化財発掘調査	三ノ丸武家屋敷・道路	18次	
15	大分市立荷揚町小学校屋内運動場改築に伴う埋蔵文化財発掘調査	三ノ丸武家屋敷・道路	19次	
16	中門橋の確認調査	府内城内	26次	
17	大分城址公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査	府内城内	27次	
18	大分市開発に伴う埋蔵文化財発掘調査	三ノ丸武家屋敷	29次	

※大分市教育委員会2008を改変

今回の調査地
中堀想定範囲
過去の調査地

第２図　調査区位置図(1/4000)

第３章　発掘調査の成果

第１節　遺跡の調査

調査地である公用車等駐車場は、老朽化や大規模災害等への即応力の強化に伴い、平成 30 年に解体され、令和元年に新しく公用車等駐車場として建設される。当該地は府内城三ノ丸の東に位置する。調査地は確認調査から堀また町屋の存在が予想された。調査面積は 529 ㎡である。区域１からは近世の遺構及び撹乱が確認された。区域２は近代の遺構及び撹乱が確認された。調査区では堀の痕跡が確認できなかったこ

第３図　調査区配置図（１/1000）

とから、調査区外であったが、県有財産経営室の協力により２本のトレンチを調査区の西隣に設定し掘削した。その結果、中堀は調査区西側の道路及び県庁部分に沿って展開していることが分かり、従来想定されていた堀がそれより西側に存在することが確認された。

第２節　層序

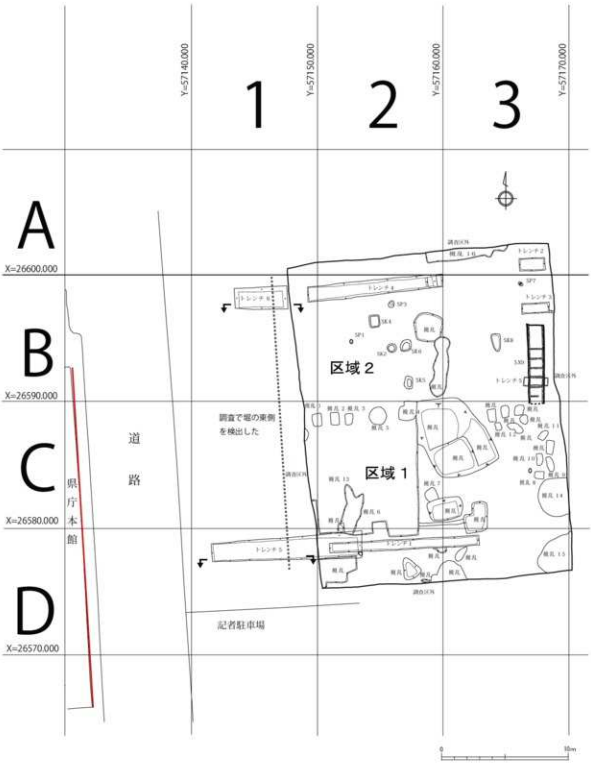
調査区の層序（第５図－１）は、第１層が表土、第２層は黒褐色砂質土（10ＹＲ３／２）、第３層は黒褐色砂質土（10ＹＲ３／１）、第４層はにぶい黄褐色砂質土（10Ｙ５／４）、第５層は暗褐色砂質土（10ＹＲ３／４）である。第２層から５層は盛土である。第６層は褐色砂質土（10Ｙ４／４）で整地層である。第７層は暗灰黄色粗砂（2.5Ｙ５／２）の地山である。第６層の整地層もしくは第７層の地山まで重機掘削し精査したが、堀跡の検出はなく、確認した遺構も近代の遺構及び攪乱であった。このため、調査区内に２本のトレンチを設定し掘り下げを行った。この結果、トレンチ１（第５図－２）は第６層が整地層、第７層以下は地山であることが確認され、トレンチ４（第５図－３）も第７層以下は地山であり遺構は確認できなかった。また堀跡も検出できなかった。

第３節　遺構

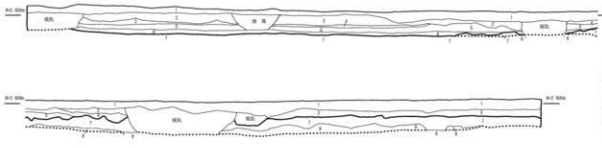
区域１（第４図）では遺構の検出はなく、ほぼ全面が攪乱を受けていた。攪乱からの出土遺物はガラス瓶や陶磁器などであったが、いずれも近現代のものであった。区域２で検出した遺構（第６図）は、ＳＰ１・３・７のピット、ＳＫ２・４～６・８の土坑であった。ＳＰ１は褐色砂質土（10ＹＲ４／４）で粗砂を若干含む埋土である。ＳＫ２、ＳＰ３、ＳＫ４・５、ＳＰ７、ＳＫ８は暗褐色砂質土（10ＹＲ３／３）で粗砂を少量から中量含む埋土である。ＳＫ６は第１層が暗褐色砂質土（10ＹＲ３／３）で粗砂を含み、炭化物を若干含む埋土、第２層が灰黄褐色砂質土（10ＹＲ４／２）で粗砂を中量含む埋土である。ＳＸ９は井桁状の木製遺構である。何らかの工事の際足場の沈下を防ぐため敷かれたものと考えられる。これらの遺構からは近現代の遺物が出土している。そのため、トレンチ１と４を設定し掘削したが、府内城・城下町に伴う江戸期の遺構は検出できなかった。

第４節　トレンチ

江戸期の遺構が第７層の地山面で検出できず、トレンチ１と４を設定し掘削しても遺構や堀跡が確認できなかった。そのため、調査区全体が堀の中にある場合（第２図）と、逆に調査区の西側に堀がある場合の２つの可能性が考えられた。そこで調査区の西側にトレンチを新たに２本設定し掘削することにした。トレンチ５（第５図－４）では第１・２・６層は表土もしくは盛土であり、第３～５層は堀の埋土である。第７・８層は第９層が削平されてから形成された層である。注目すべきは第９層に、石垣の裏込め石に使用したと考えられる巨大の礫が確認されたことである。次にトレンチ６では以下の土層が確認された（第５図－５）。第１層は表土、第２～８層は第10層が後世に削平されてから、形成された層である。ここでも注目すべきは第13層でも同様に裏込め石が確認されたことである。第10～12層は堀の埋土である。トレンチ５・６とも石垣本体はみられなかったが、堀の東側石垣の裏込め石と埋土がみられた。以上のことから当初従来の堀の推定ラインから調査区全体が堀の中であると想定していたが（第２図）、今回の調査で、堀が第２図に示している位置より西側（道路部分を含む県庁寄り）に展開していることが、新たに確認できた（第３・４図）。



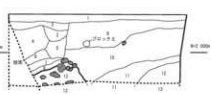
第４図　調査区平面図（１/３００）



第５図－１　調査区西壁土層断面図（１/80）

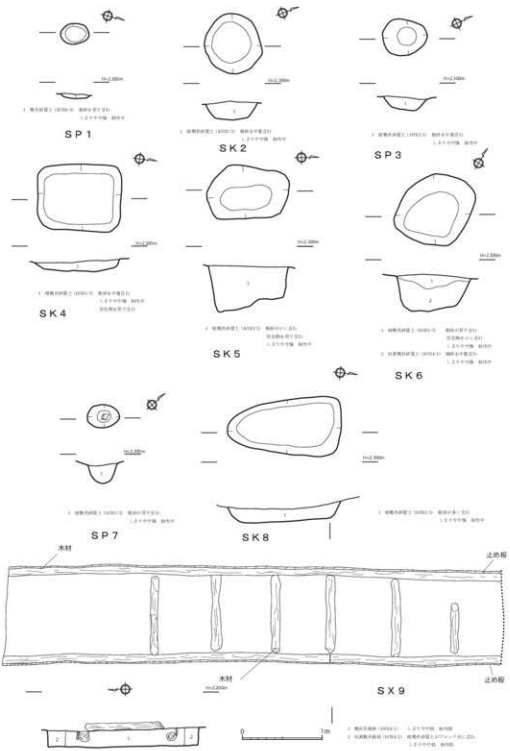
第５図－２　トレンチ１北壁土層断面図（１/80）

第５図－３　トレンチ４北壁土層断面図（１/80）



第５図－５　トレンチ６南壁土層断面図（１/80）

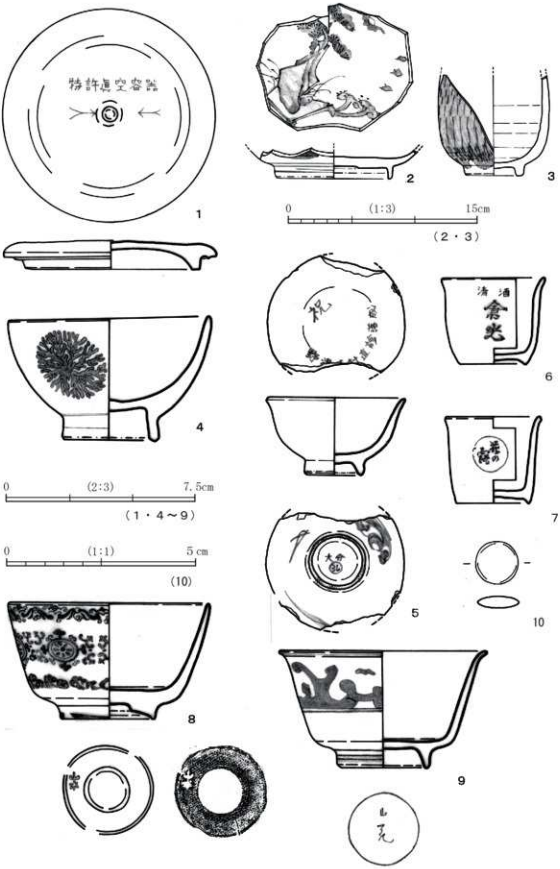
第５図－４　トレンチ５南壁土層断面図（１/80）



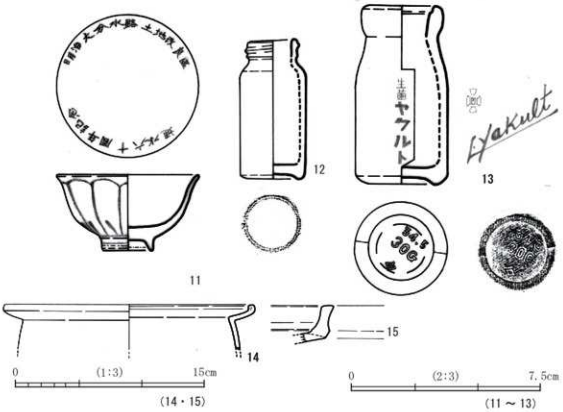
第６図　遺構図 (1/40)

第５節　遺物

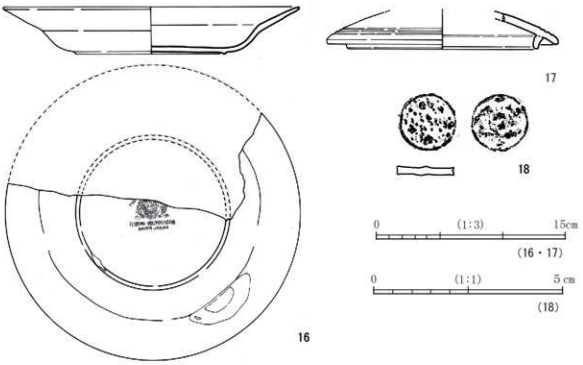
第７図１～第10図20は近現代のものである。１は区域１撹乱８からの出土で、戦中の防衛食を入れた磁器の蓋である。この防衛食容器は有田製で非常食用缶詰の代用品で、蓋の上部には「特許真空容器」とあり、この容器は真空パックができる特許製品であったことが分かる。蓋の中央の窪みに穴をあけて開封しており、窪みがわかりやすいように、矢印で示されている。蓋を取る時は釘で中央の窪みに穴を開けて開封した。使い方として、容器に食糧を入れ、蓋と容器の間にパッキンを挟み込む。蓋と容器をしっかり圧力で密着させて、熱湯に浸した後、冷水に浸す。こうすることで容器内が真空になり、蓋と容器が密着する。開封する時は、蓋の中央部にある窪みを釘などでつついて割ると、空気が入って蓋が開く仕組みになっている。２の磁器皿は区域１撹乱６からの出土で、内側に松を描写している。３は小鹿田焼の湯呑み碗で区域１撹乱14からの出土である。飛び鉋、櫛描きなどを刻んだ幾何学的紋様を特徴としている。４は瀬戸美濃の湯呑み碗で区域１撹乱６からの出土である。正面にはピンク色で植物をあしらった文様がみられる。５は瀬戸美濃の小杯で区域１撹乱12からの出土である。見込みに「祝　野（津原村）直診落成」の銘が上絵付けで施されており、戦後に診療所が設けられた際に作られたものと考えられる。高台内部にも「大分　弘」と銘がある。６は染付の小杯で区域１撹乱４からの出土である。外側正面には「清酒　倉光」の文字がみられる。大分市森町の酒蔵である。７は染付の小杯で区域１撹乱４からの出土である。外側正面には「花の露」の文字がある。６・７とも酒を飲むための器である。８は湯呑み碗で区域１検出時出土である。外側には幾何学的紋様のスタンプ紋がみられる。高台には「山木」と印が施されている。９は瀬戸美濃の染付湯呑み碗で、区域１検出時出土である。外側には波の文様がみられる。高台内側には「山花」と文字がみられる。10は碁石で区域１撹乱１からの出土である。黒色の粘板岩である。11は区域１検出時出土で、磁器の小杯で内側口縁近くに「明治大分水路土地改良區　通水六十周年記念」とあり、文献に明治33年に大分川から通水する大分水路が完成し多くの田畑に受益が得たことが記録に残っている。戦後に記念品として配られたものと考えられる。12はガラス瓶で区域１撹乱５からの出土である。特に外面に文字が書かれた様子はない。13はガラス瓶で区域１撹乱５からの出土である。外面正面に赤字で「ヤクルト」、側面には「Lyakult」とある。昭和10年に発売以来、ヤクルトの容器にはガラス瓶が使用されていた。戦後すぐの頃には、販売店ごとに独自の瓶を使用し、容量も数種類あったこともあったようである。ガラス瓶容器は牛乳瓶を小さくしたような形状で、瓶口は紙栓で閉じられていた。しかし、ガラス瓶には回収に手間がかかるという問題があった。そこで、昭和43年にはプラスチック製の容器が採用され、ガラス瓶は廃止された。14は陶器の鍋でトレンチ１の撹乱からの出土である。15は炮烙で表探である。16は磁器の洋食器皿で区域２SK６からの出土である。内面に貫入がみられ、外面に胎土目があり、高台内部には生産会社のマークと「TEIKOKU TOGYOKAISHA」「ARITA JAPAN」の銘がみられる。明治期に香蘭社・精磁会社・深川製磁などの有田焼の会社が設立されていたが、16の高台内面の銘はそれらの会社に該当せず、生産会社と年代の詳細は分からないが、近代である。17は陶器の蓋で区域２SP７からの出土である。18はアルミニウム製の銭で中央に菊の文様があり、その下に「銭」とあるが、不鮮明なところが多く、明確な時期は分からないが、大きさや、中央に四角い穴がないこと、アルミニウムという材質から「５銭」の可能性が高く、戦前に使われたと考えられる。19は桟瓦で区域２撹乱16からの出土である。側面に「蔵惣」と刻印があり、瓦工人が居住する地名（蔵掛付、現在の大分市大字倉掛付近）と工人名（惣平）を組み合わせたもので、明治時代前半期の年代を示す。20は壁土で区域２撹乱16からの出土である。



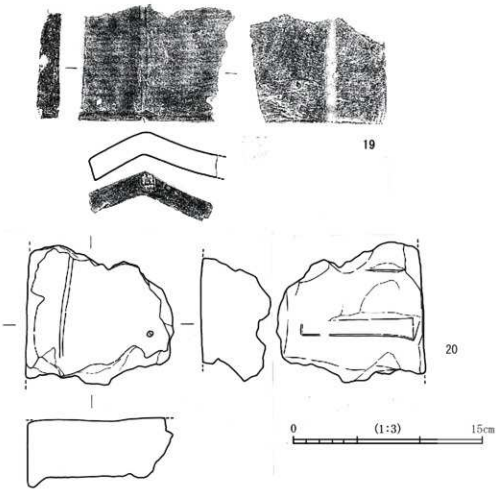
第７図　区域１出土遺物（１）



第８図　区域１出土遺物（２）



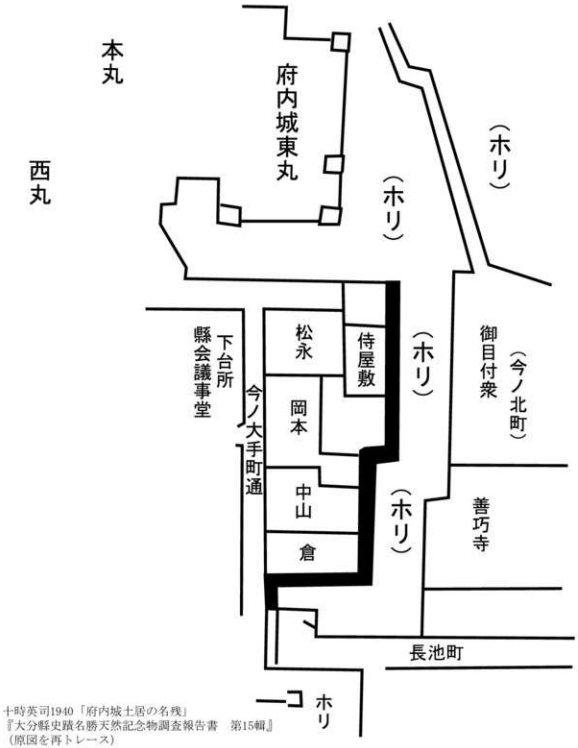
第９図　区域２出土遺物（１）



第 10 図　区域２出土遺物（２）

第４章　総括

調査区内は攪乱が多く、遺構も７層の地山面で江戸期の遺構が確認できず近現代のものしか検出できなかった。そこでトレンチ１・４を設定し、７層の地山面より下に江戸期の遺構の有無と、堀の遺構を検出できるかという確認をした。いずれも確認できず、調査区外に堀が存在する可能性が出てきた。このため調査区の西側にトレンチを２本設定し、掘り下げを行った結果、堀の埋土と東側石垣の裏込め石を確認することができた。これは従来想定されていたように（第２図）、調査区が堀の中に位置する可能性があったということに疑問を生じることとなった。そこで急きょ、トレンチ５・６を設定したところ、掘り下げにより堀の東側石垣の裏込め石を検出し、新たに中堀の位置を特定することができた（第３・４図）。このことから東側の中堀は、第３図にあるように南東方向に斜めに延びるのでなく、中堀の東側石垣は現在の県庁舎の東隣の道路に沿って、ほぼ南北方向に掘られていた可能性が高まった（第３・４図）。それは 1940 年の『大分縣史蹟名勝天然記念物調査報告書　15 輯』に掲載された中堀の推定ラインと一致する（第 11 図）。調査区内に江戸時代の遺構がないのは、その東隣に江戸時代に善巧寺があり、その空閑地として利用されたからだと推定される。



十時英司1940「府内城土居の名残」
『大分縣史蹟名勝天然記念物調査報告書　第15輯』
（原図を再トレース）

第11図　府内城絵図

第１表　遺物観察表（土器・陶磁器・ガラス瓶）

番号	種類	器形	生産地	法量（cm）( ) は復元径			遺構名	備考
				口径	器高	底径		
1	磁器	防衛食 ピン詰容器蓋		6.3	1.2		区域１　撹乱８ 検出時	最大径：8.4cm
2	磁器	皿			2.3+α	(9.0)	区域１　撹乱６	松を描写
3	陶器	湯呑み碗	小鹿田焼		4.9+α	4.2	区域１　撹乱14 検出時	高台から破損面にかけスス付着
4	磁器	湯呑み碗	瀬戸美濃	7.8	4.8	3.6	区域１　撹乱６	銅版転写
5	磁器	小坏	瀬戸美濃	5.3	3.0	2.1	区域１　撹乱12 検出時	見込み「祝　野(律原村)直診落成」の銘あり(上絵付) 高台内「大分弘」の銘あり
6	磁器	染付小坏		3.8	3.4	2.6	区域１　撹乱４ 検出時	正面に「清酒・倉光」の文字
7	磁器	染付小坏		3.6	3.4	2.8	区域１　撹乱４	正面に「花の露」の文字　福岡県の酒屋か
8	磁器	湯呑み碗		7.8	4.6	3.7	区域１　検出時	スタンプ紋あり　銅版転写
9	磁器	染付湯呑み碗	瀬戸美濃	(8.0)	4.6	(3.4)	区域１　検出時	
11	磁器	小坏		5.6	3.0	1.9	区域１　検出時	内面「明治大分水路土地改良区 通水六十周年記念」
12	ガラス	瓶		1.6	5.5	2.0	区域１　撹乱５	
13	ガラス	瓶		2.6	7.0	2.5	区域１　撹乱５ 検出時	赤字で「ヤクルト」「Lyakult」
14	陶器	鍋		(19.6)	3.5+α		トレンチ1　撹乱	
15	土師質	焙烙		(28.0)	2.9+α		表採	内面に銀色の付着物
16	磁器	洋食器・皿		23.2	3.7	11.7	区域２　SK-6	内面に貫入 外面に胎土目 高台内「THC-以下包」 社マーク 「TEIKOKU TOGYOKAISHA」 「ARITA JAPAN」の銘あり
17	陶器	蓋		(14.9)	(1.8+α)		区域２　SP-7	

第２表　遺物観察表（石製品）

番号	種類	材質	寸法（cm）						重量（g）	遺構名	備考
10	碁石	粘板岩	長さ	2.2	幅	2.2	厚さ	0.6	3.6	区域１　撹乱1 検出時	

第３表 遺物観察表（銭）

番号	銭貨名	重さ（g）	直径（cm）	遺構名	備考
18	銭	1.1	1.6	区域２　SX-9	幅：1.5cm　厚さ：0.2cm　中央に菊文あり

第４表　遺物観察表（瓦）

番号	種類	寸法（cm）						遺構名	備考
19	桟瓦	長さ	9.2	幅	11.5	厚さ	1.8	**区域２　撹乱16**	高さ:3.7+α　側面に刻印「藏物」

第５表　遺物観察表（土製品）

番号	種類	寸法（cm）						重量	遺構名	備考
20	壁土	長さ	11.0+α	幅	11.5+α	厚さ	5.4	530.0	区域２　撹乱16	

写真　図版

調査区遠景（南東から）

区域１完掘（西から）

区域２完掘（西から）

調査区外トレンチ位置
（赤いコーンが堀の位置・南から）

ＳＸ９完掘（南から）

図版2

トレンチ５堀の東石垣（裏込め石）検出状況（北から）

トレンチ６堀の東石垣（裏込め石）検出状況（北から）

第７図１

第７図２

第７図３

第７図４

第７図５外面

第７図５内面

第７図６

第７図７

図版4

第７図８外面

第７図８底面

第７図９外面

第７図９底面

第８図 11 外面

第８図 11 内面

第８図 12

第７図 10

第８図 13 正面

第８図 13 側面

第８図 14

第８図 15

第９図 17

第 10 図 19

第９図 18 表面

第９図 18 裏面

第9図16外面

第9図16底面

報告書抄録

ふりがな	ふないじょう・じょうかまちさんじゅういちじ
書名	府内城・城下町31次
副書名	公用車等駐車場再配置事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	大分県立埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第14集
編著者名	土谷崇夫
編集機関	大分県立埋蔵文化財センター
所在書	〒870-0152　大分市牧緑町１－61
発行年月	2020（令和２）年３月31日

ふりがな	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名		市町村	遺跡番号					
府内城（ふないじょう）・城下町（じょうかまち）	大分市大手町	44201	201041	33° 14′17″	131° 36′47″	2018.10.29～2018.11.20	529㎡	公用車等駐車場再配置事業

所収遺跡名	種別	主な時代・遺構	主な遺物	特記事項
府内城・城下町	城下町	江戸時代・近現代	陶磁器・ガラス瓶など	
要約	江戸時代の遺構は調査区内では見られず、近現代の遺構や遺物を含む攪乱などが検出された。調査区の西側にトレンチを２本設定し、中堀の東石垣の裏込め石を確認することができた。今までは南東方向に斜めに堀が存在していたと考えられたが、堀は南北方向に走っていたことが確認できた。遺構が少ないのは、調査区の東隣に江戸時代において善巧寺が存在しており、その空閑地であったからだと考えられる。			

府内城・城下町31次

－公用車等駐車場再配置事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

発行年月日	令和２年３月31日
編集	大分県立埋蔵文化財センター
所在地	〒870-0152　大分市牧緑町１-61 TEL 097(552)0077
印刷	春日印刷有限会社 〒870-0031　大分市勢家町３-４-23 TEL 097(534)1221